

入学・進学

地球物理学コースへの進学

本コースは理学部物理系に属します。物理系に入学後、2年生の10月にコースへの分科があり、4年生の4月から研究室に所属されます。

[大学4年間のステップ]

1年生 4月	理学部物理系に入学
2年生 10月	分科：地球物理学コース進学
4年生 4月	研究室(研究分野)所属

高等専門学校卒業生の方は、選抜試験を経て3年生として編入学することもできます。試験は例年9月に実施されます。

東北大学入試案内

<https://www.tnc.tohoku.ac.jp/>

<問合せ先>

〒980-8576 仙台市青葉区川内28

東北大学 教育・学生支援部入試課

一般選抜 TEL: 022-795-4800

AO入試等 TEL: 022-795-4802

理学部編入学入試案内

<https://www.sci.tohoku.ac.jp/juken/undergraduate-admission/hennyuugaku.html>

<問合せ先>

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3

東北大学理学部・理学研究科 教務課学部教務係

TEL: 022-795-6350 Email: sci-kyom@grp.tohoku.ac.jp

地球物理学専攻への入学・進学

修士課程への入学は、入学試験を経て許可されます。本専攻内での修士課程から博士課程への進学は、修士論文の発表と最終試験の結果の総合的な評価を経て許可されます。他大学・他専攻の修士課程を修了した学生が本専攻博士課程への編入学を希望する場合は、本専攻内での進学に準じた入学試験を経て許可されます。博士課程への10月編入学の募集要項は例年6月に発表されます。出願期間は7月に設定されており、試験は8月に行われます。また4月編入学の募集要項は例年11月に発表されます。出願時期は1月に設定されており、試験は2月に行われます。

[修士課程学生(4月入学)の入学試験日程概要]

3月～4月	入試説明会実施
4月下旬/5月下旬～6月上旬	募集要項発表(自己推薦/一般選抜)
6月上旬/7月中旬	出願受付(自己推薦/一般選抜)
7月上旬/8月下旬	入学試験(自己推薦/一般選抜)
翌年4月	地球物理学専攻に入学

地球物理学専攻入試案内

<https://www.gp.tohoku.ac.jp/entrance-exams/entrance-exams-top.html>

<問合せ先>

[事務手続き関係]

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3

東北大学理学部・理学研究科 教務課大学院教務係

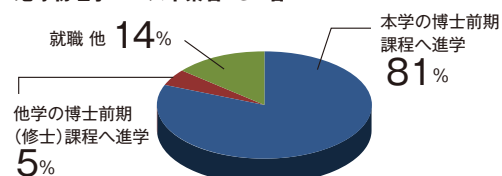
TEL: 022-795-6351 Email: sci-in@grp.tohoku.ac.jp

[入試全般]

Email: gp-nyushi@grp.tohoku.ac.jp

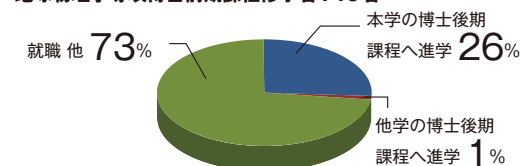
卒業生の進路(2018～2022年度集計)

地球物理学コース卒業生134名



※東京海上日動、明治安田システム・テクノロジー、CEC、JTB、東京電力、アエラス、ワールドアイシティ、横浜税関、ソニー、ラック、日本原燃、気象庁 等

地球物理学専攻博士前期課程修了者140名

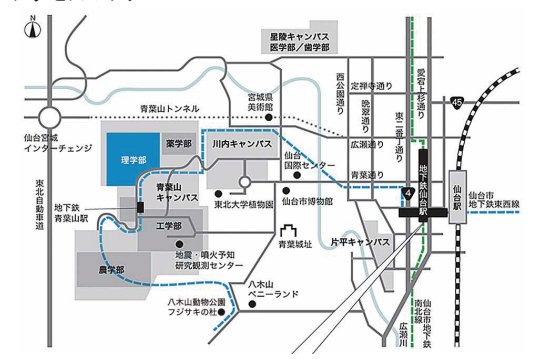


※富士通、東京海上日動、キャノン、NEC、三菱電機、キリンホールディングス、日本総合システム、中部電力、JR東日本テクノロジー、日本ユニシス、NTTデータ、NTTドコモ、NTT東日本、新日鉄住金ソリューションズ、各地県庁、各地高校、情報技術社、日本総合システム、LIFULL、朝日航洋 等

地球物理学専攻博士後期課程修了者38名

※過去5年間の就職先：各地大学、防災科学技術研究所、産業総合技術研究所、電力中央研究所、極地研究所、気象庁 等

アクセスマップ



東北大学理学部宇宙地球物理学科
地球物理学コース
東北大学大学院理学研究科
地球物理学専攻

問合せ先：東北大学大学院理学研究科 教務課教務企画係物理系担当
〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3

TEL: 022-795-6494 / Email: kyomu@jimu.phys.tohoku.ac.jp

このリーフレットに関する問合せ先: gpweb@grp.tohoku.ac.jp
2024年5月発行

東北 地球物理

検索



東北大学 理学部 宇宙地球物理学科 地球物理学コース 東北大学 大学院理学研究科 地球物理学専攻



地球物理学は、地球内部の固体領域から海洋・大気の領域、そしてその上空の超高層領域から惑星・惑星間空間で生じている諸現象を物理学的視点から研究する学問です。地球物理学コース・地球物理学専攻では、総勢250名以上のスタッフと学生が、地球・惑星の諸現象が示す様々な謎の解明に挑んでいます。

地球物理学コース・専攻

<https://www.gp.tohoku.ac.jp/index.html>



地球物理学コース・専攻の紹介

宇宙地球物理学科 地球物理学コース(学部)および地球物理学専攻(大学院)では、地球・惑星で起こる諸現象を主に物理的な手法に基づいて研究しています。組織の原点は、東北帝国大学理科大学物理学科が設置された1911年にさかのぼります。同学科が1912年に気象と地震を観測する向山観象所を設置して以来、“観測重視”の姿勢を現在に至るまで受け継いでおり、本コース・専攻の特徴となっています。100年を超える研究活動から、地震発震機構としての複双力源モデルの提唱(本多弘吉)、大気赤外放射の実用的な計算方法である大気放射図の提唱(山本義一)や、地磁気の周期微動として現れる宇宙空間起源の電磁流体波の発見(加藤愛雄)等、世界的な成果を生み出してきました。

本コース・専攻は4つの基幹講座と3つの観測・研究センターからなり、およそ50名の教員がいます。これらの講座とセンターは、固体地球系(A)、流体地球系(B)、太陽惑星空間系(C)の3つの研究領域に緩やかに分かれており、互いに連携を保ちつつ、教育・研究を行っています。

地球物理学の魅力は、地震、火山から、気象、気候、海洋、さらにはオーロラ、太陽・惑星現象といった雄大な自然界の営みを間近に感じながら学問を進めることができることにあります。一方で、時として自然現象は、私達も決して忘れることのできない震災や、気象災害、宇宙活動における放射線障害等をもたらします。また、地球温暖化による環境変動は看過できない状況にあります。これらの自然災害や環境問題に立ち向かってゆく上で、社会的にも地球物理学は大きな役割を担うことが期待されています。本コース・専攻と災害科学国際研究所では、教員が互いに兼務し、自然災害科学の研究・教育を協同で行っています。皆さんと、自然現象における真理の探究を目指すとともに、人間と自然環境とのよりよい関係の構築と維持に貢献していきたいと思っています。

カリキュラム

■地球物理学コース

主に2年生の前期までに開講する全学教育科目と、4年間で開講する専門教育科目で構成されます。このほかに、教職に関する科目もあります。

■地球物理学専攻

講義、セミナーと研究に関わる科目で構成されます。

本コース・専攻の授業概要については、以下をご参照下さい。
<https://www.gp.tohoku.ac.jp/about/flow-until-graduation.html>



固体地球系(A領域)

地震発生過程、火山噴火過程、プレート運動、マグマ活動、地球内部構造等

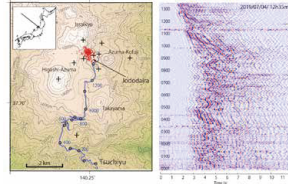
◆地震・火山学(固体地球物理学講座)

◇沈み込み帯物理学(地震・噴火予知研究観測センター)

地震・火山学分野

地震・火山現象と地球内部構造の研究

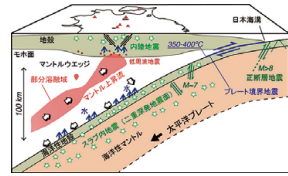
複雑な断層破壊、多様な火山噴火現象、不均質な地球内部構造とそれを伝播する地震波特性を、データ解析や理論・数値モデリングに基づいて研究しています。右図は、吾妻山周辺の光ファイバーケーブルを用いたDAS(分布型音響計測)により得られた火山性地震の記録の例です。DASの技術の進展により、従来よりはるかに稠密な地震観測が可能になり、規模の小さな地震の震源も決めることができます。



沈み込み帯物理学分野

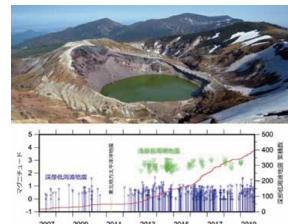
内陸地震グループ:内陸地震発生過程の研究

地表で観測される地震波形の解析により、東北地方下の詳細な地下構造が明らかになってきました。太平洋プレート内の「水」が地震活動やマグマ活動を引き起こしながら、内陸浅部まで上昇してきていることがわかります。



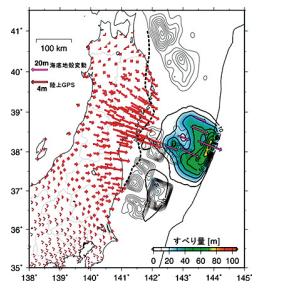
火山噴火グループ:火山噴火準備・発生過程の研究

2011年東北地方太平洋沖地震以後、多くの火山で活動変化がみられ、蔵王山では深部低周波地震活動の活発化や浅部長周期地震・微動発生が捉えられました。測地・地震・電磁気等の観測手法で現象の解明・モニタリングを進めています。



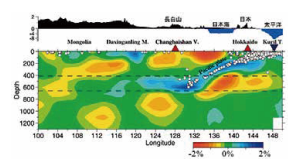
海域地震グループ:海陸プレート境界域の研究

2011年東北地方太平洋沖地震による陸地・海底の動きを陸上GPS、海底地殻変動などの観測で明らかにしました。また、それらをもとに地震時のプレート境界での断層すべりの分布を求めたところ、日本海溝にごく近い狭い領域で50mを超えるすべりが発生していたことがわかりました。



グローバル地震火山グループ:グローバルスケールの地震火山研究

地震波速度の分布を調べることで、日本の火山だけではなく、中国大陸東部の火山も太平洋スラブの沈み込みに関係していることを明らかにしました。



流体地球系(B領域)

大気・海洋・陸面相互作用、大気・海洋循環、気象・気候変動過程、温室効果気体、雲・エアロゾル等

◆気象学・大気力学(流体地球物理学講座)

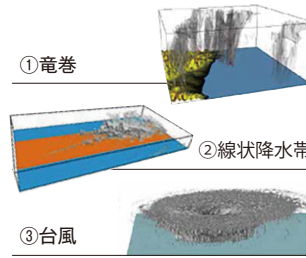
◆海洋物理学(地球環境物理学講座)

◇物質循環学、気候物理学、衛星海洋学(大気海洋変動観測研究センター)

気象学・大気力学分野

大気境界層から大気大循環までの力学や物理過程を研究

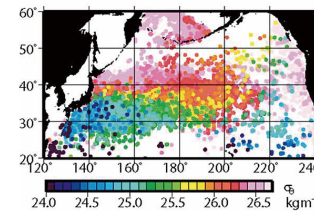
大気と地表面間の熱と水の交換過程から、マイクロスケールの大気乱流、メソスケールの極端気象(台風、線状降水帯など)、総観・全球スケールの熱帯の対流や中高緯度の寒気流出に至るまで、多様な時空間スケールの気象・気候に関わる力学や物理過程を研究対象としています。



海洋物理学分野

大規模大気海洋相互作用、水塊の研究

北太平洋の水塊分布の解析例。様々な海域や深さの水温や塩分等を詳しく分析して、海の構造の成り立ちや循環の仕組み、大気との関わりを研究しています。



物質循環学分野

温室効果気体の変動過程の研究

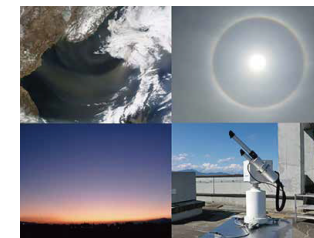
温室効果気体の全球的な時空間変動とその原因を明らかにするために、大気球・航空機・船舶・地上基地を用いた観測と数値モデルを用いた研究を行っています。



気候物理学分野

大気微粒子の変動による気候変動の研究

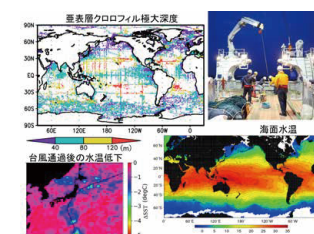
雲やエアロゾルなどの大気中の微粒子による光の散乱と放射過程を介した気候変動への影響をよりよく理解するため、人工衛星からの観測データの解析、地上観測、数値モデルを用いた解析によって研究しています。



衛星海洋学分野

海洋環境変動の研究

人工衛星や船舶、ブイ、フロートなどの観測データ、気候・海洋数値モデルの計算結果などを統合的に解析して、海洋環境の実態とその変動を明らかにする研究を行っています。



太陽惑星空間系(C領域)

宇宙・惑星プラズマ現象、惑星大気現象、惑星探査、粒子加速、オーロラ、惑星・衛星表面環境等

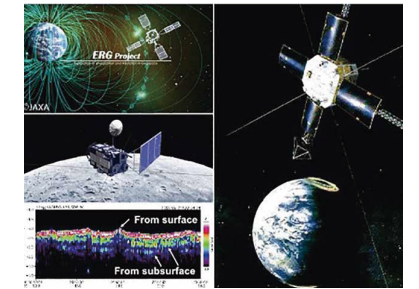
◆宇宙地球電磁気学、惑星大気物理学(太陽惑星空間物理学講座)

◇惑星圏物理学(惑星プラズマ・大気研究センター)

宇宙地球電磁気学分野

宇宙空間プラズマ現象の研究

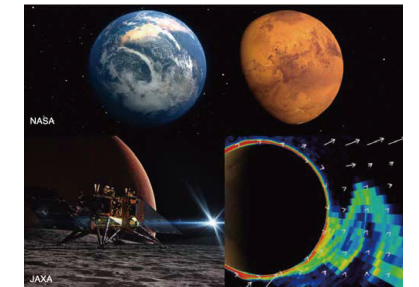
地球周辺や月・惑星における宇宙空間の理解を、電磁気学・プラズマ物理学に基づいた観測・理論・シミュレーション研究を通じて行い、粒子加速や電磁波放射など太陽惑星空間で生じる諸現象の本質を究明します。



惑星大気物理学分野

地球・惑星大気現象の比較惑星学的研究

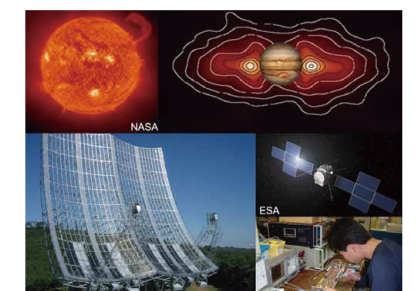
地球や惑星の大気は、太陽の影響を受けて宇宙空間に絶えず流出しており、数~数十億年スケールの長い時間をかけて変動・進化してきました。惑星探査機等の観測、数値シミュレーション、室内実験を駆使して、生命生存可能環境や生命起源の理解を目指しています。



惑星圏物理学分野

太陽・惑星磁気圏現象と粒子ダイナミクス研究

大型アンテナや科学衛星・惑星探査機搭載の電波観測機器の開発や観測・データ解析に基づいて、太陽や地球・惑星磁気圏で発生する多様な変動現象や粒子加速の物理過程を探っています。



惑星大気・衛星周辺環境・オーロラ現象の研究

地上・宇宙望遠鏡、可視・赤外分光装置、人工衛星搭載機器を用いて、太陽に近い水星から遠い土星にいたる諸惑星や衛星の大気・周辺環境、ならびに地球のオーロラ発光の物理過程を解明しています。

